

(様式 17)

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士 (医 学)	氏 名	宮崎 茜
審査担当者	主査	教授	田中 真樹
	副査	教授	石田 晋
	副査	准教授	志賀 哲
	副査	教授	久住 一郎

## 学 位 論 文 題 名

食習慣・肥満の心理学的・神経生理学的影響に関する研究  
(Studies on psychological and neurophysiological consequence of dietary habits and obesity)

肥満は心血管疾患や糖尿病のリスクとなり、生活習慣への介入による改善が報告されている。性格傾向や認知機能の個人差による肥満への影響が報告されているが、偏った生活習慣の形成・維持と関連する心理学的・神経生理学的メカニズムは十分に明らかになっていない。本検討では食習慣・肥満の影響を心理学的側面との関連性について質問紙を用いて検討した。さらに、肥満の情報処理過程との関連性について、神経生理学的指標を用いて検討した。その結果、健康的な食習慣の傾向と衝動性を反映する心理行動特性との関連性、持続長の逸脱を反映する事象関連電位成分と肥満傾向との関連性が示唆された。本研究から、健康的ではない食習慣は衝動的な行動の選択傾向と関連し、情報処理過程と肥満の影響を受ける神経生理学的メカニズムとの関連性が示唆された。

審査にあたり、まず副査の石田教授から、本検討の意義、事象関連電位成分の減弱の背景について質問があり、申請者は、肥満傾向と食習慣に寄与する心理的側面を検討する必要性、事象関連電位成分の起源となる皮質の体積が神経炎症の影響を受けている可能性を述べた。副査の志賀准教授から、聴覚刺激の処理に関連する側頭葉についてのイメージング技法について質問があった。主査の田中教授から、肥満特異的な情報処理・生理学的メカニズムについて質問があり、申請者は本検討において聴覚情報処理過程に限定して検討した点について回答した。最後に副査の久住教授から、質問紙による検討の限界、複数の指標のなかで特定の指標での相違が示唆された点について質問があり、申請者は、相関関係の検討からは因果関係を推定できない点、刺激の逸脱を検出する過程の特異性について回答した。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。